

「銀の馬車道・鉱石の道」でつなぐ (播磨～但馬)

活用資源	歴史、産業
取組主体	日本遺産「銀の馬車道・ 鉱石の道」推進協議会

概要

- ・^{しかまづ}飾磨津（現姫路港）から^{いくの}生野鉱山、^{なかぜ}中瀬鉱山まで連なる 73km の道は、かつては鉱山の採掘・製錬に必要な機械や日用品などの物資と金・銀・銅の鉱産物を運ぶ馬車や多くの人びとで賑わっていました。今でも鉱山跡や馬車道をはじめとした多くの遺産が残っており、日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」として認定されています。
- ・これらの遺産を活かし、地域活性化や観光振興を図るため、行政・企業からなる日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」推進協議会が、以下の活動に取り組んでいます。
 - ①多方面からの情報発信
広範囲に点在している地域資源をつなぐストーリーを分かりやすく伝えるため、PR 映像を作って YouTube で公開するとともに、SNS を使った効果的な発信方法を学ぶワークショップを開催して住民による情報発信も進めています。
 - ②沿線をめぐるイベントを開催
自転車と列車で沿線をめぐり、地元スイーツも楽しめるサイクルトレインやバスツアーなどのイベントを開催しています。
 - ③アートによるストーリー化
鉱石の道ゆかりの鉱物、馬車道の沿線にあった鉱山町の風習や文化をテーマとしたモニュメントを沿線地域に設置する「金・銀・銅文化プロジェクト」を展開し、アートで結んでいます。

ポイント

ココが
コッ！

- ・沿線では、協議会だけでなく様々な団体が地域活性化に向けて活動していますが、「銀の馬車道・鉱石の道」をテーマとしたイベントの開催により相乗効果を得ることができます。
- ・サイクルトレインは、サイクリングを通して参加者に銀の馬車道・鉱石の道の景色や名物を楽しんでもらうことで広範囲に点在している資源の魅力を知ってもらい、エリア内外への認知度向上、再度の来訪につなげています。
- ・住民団体にとっては、「銀の馬車道・鉱石の道」というテーマを通して自分たちの活動範囲を広げることができ、新たなターゲットへの情報発信、仲間づくり・ネットワーク形成につながります。それを意識した取組内容とすることで、地元の観光ボランティアなど、多くの関係者との連携・協力体制の実現に結び付けています。



サイクルトレインの様子

この事例をもっと知りたい場合

日本遺産「銀の馬車道・鉱石の道」
推進協議会



TEL 079-281-9034

HP <http://wadachi73.jp/>

SNS  @wadachi73